

在宅医療における 薬剤師の役割と課題

日本薬剤師会
副会長 山本信夫

在宅医療における薬剤師の役割・課題・取り組み

役割

処方せんに基づき患者の状態に応じた調剤（一包化、懸濁法、麻薬、無菌調剤）
患者宅への医薬品・衛生材料の供給
薬歴管理（薬の飲み合わせの確認）
服薬の説明（服薬方法や効果等の説明、服薬指導・支援）
服薬状況と保管状況の確認（服薬方法の改善、服薬カレンダー等による服薬管理）
副作用等のモニタリング
在宅担当医への処方支援（患者に最適な処方（剤型・服用時期等を含む）提案）
残薬の管理、麻薬の服薬管理と廃棄
ケアマネジャー等の医療福祉関係者との連携・情報共有
医療福祉関係者への薬剤に関する教育

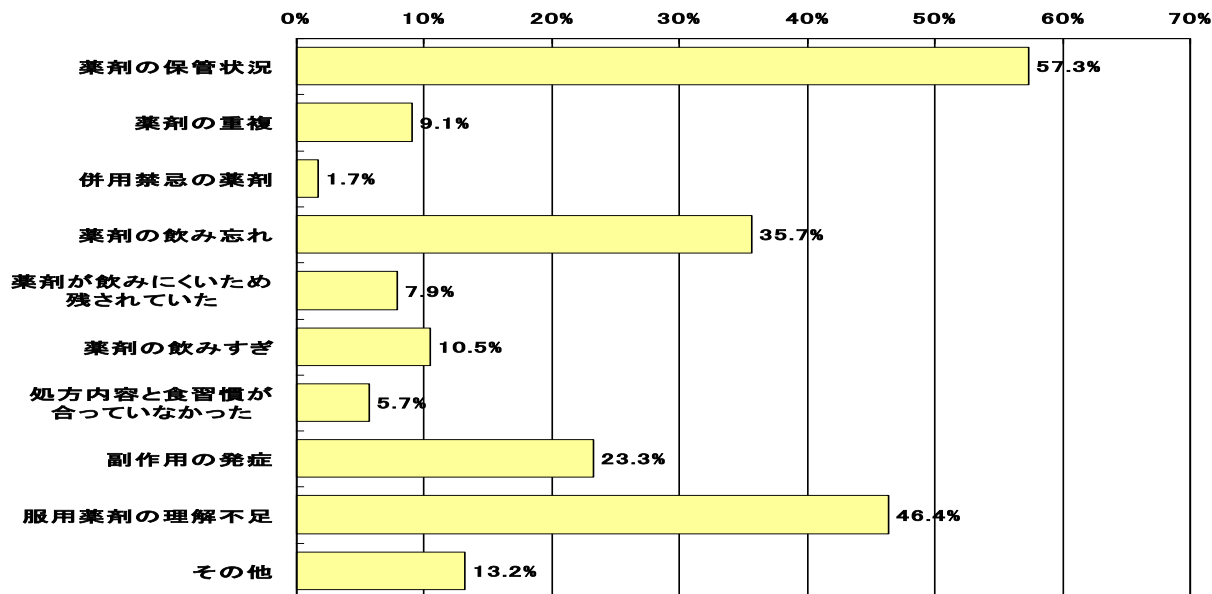


在宅患者への最適かつ効率的で安全・安心な
薬物療法の提供

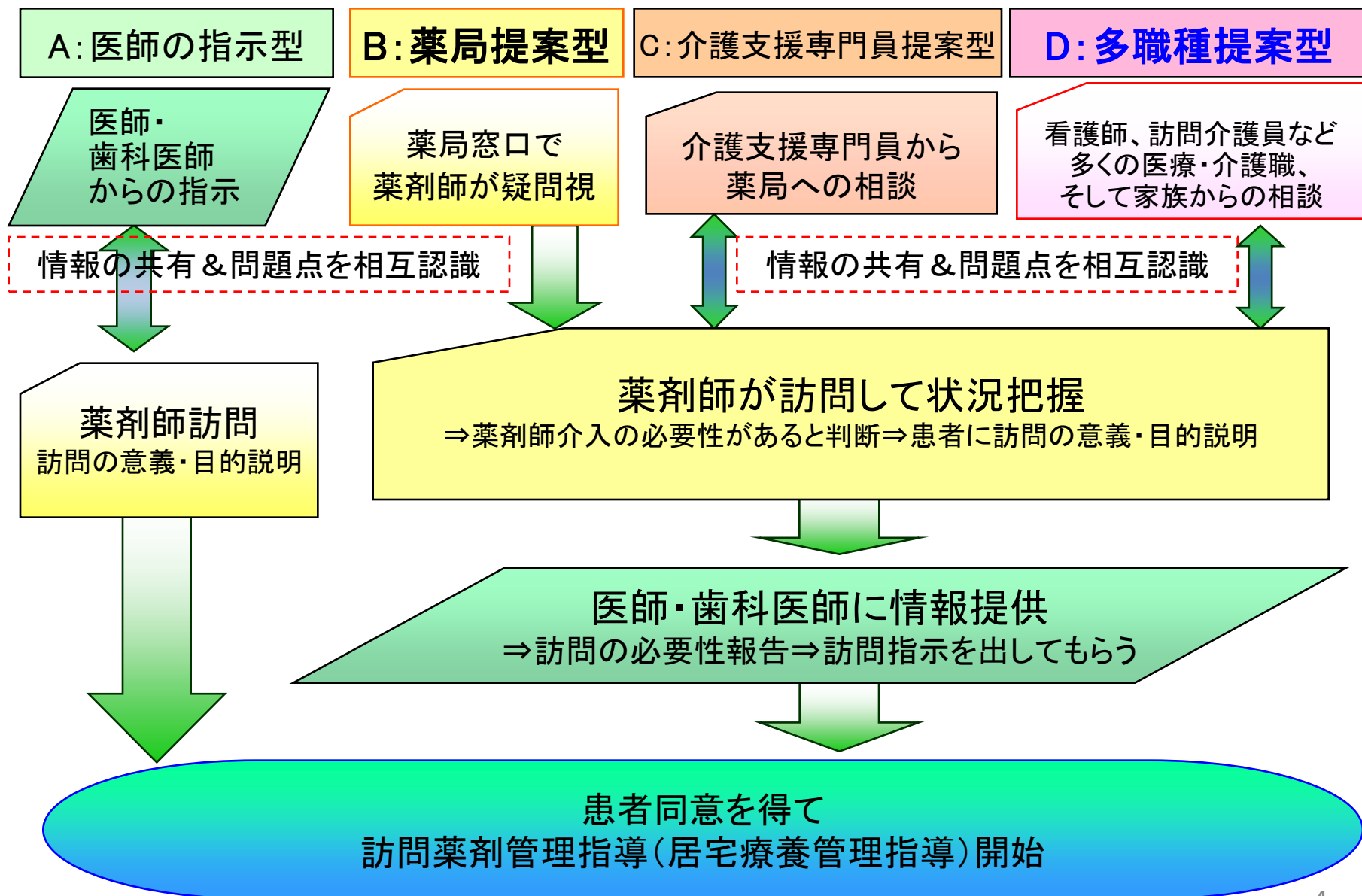
在宅医療における薬剤に関連する問題点

高齢者が多い在宅医療における特性・問題点

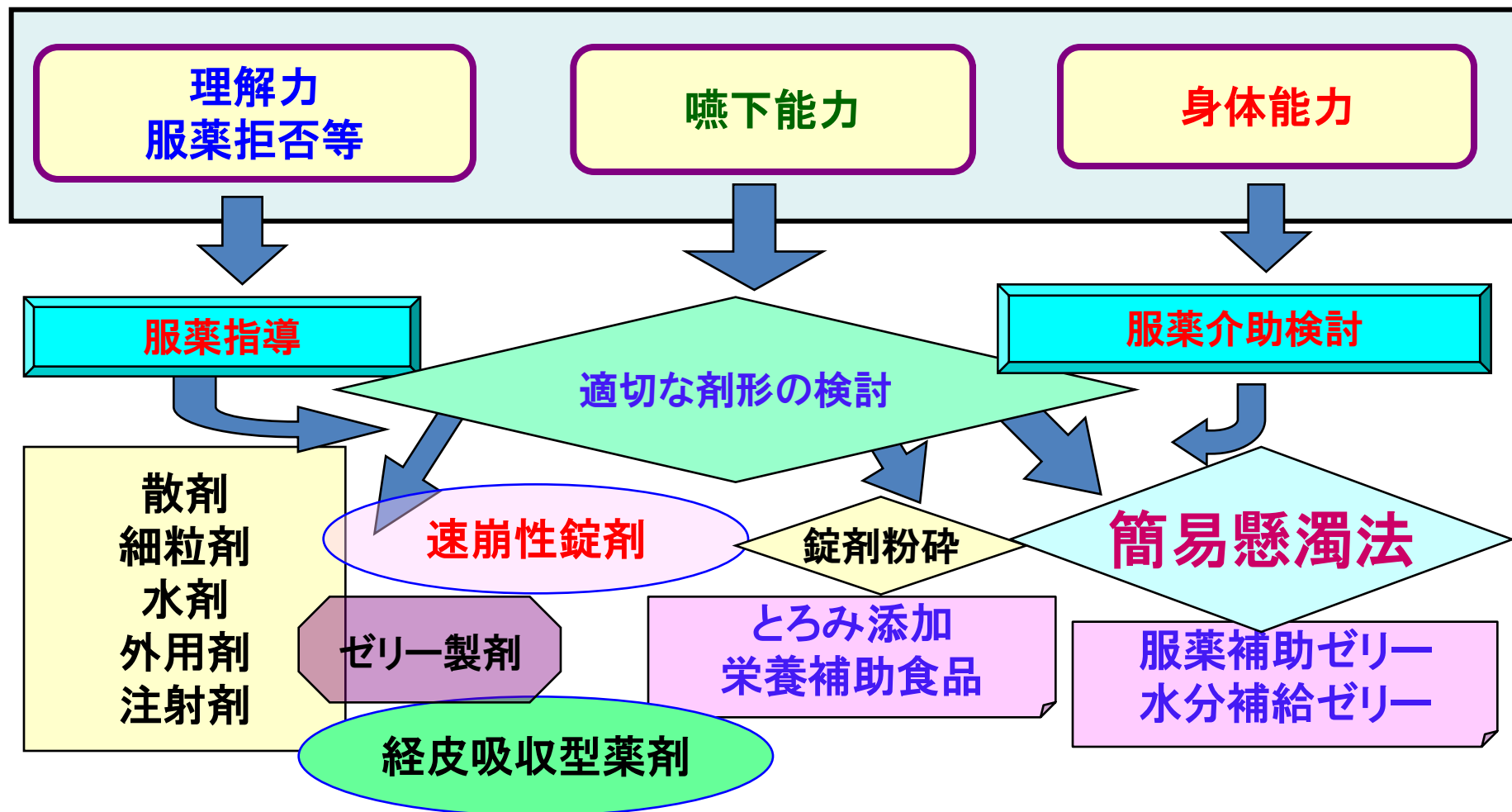
- 加齢による合併症とそれに伴う多剤併用傾向・・・重複投薬相互作用のリスクの増大
- 視覚・嚥下能力等の身体機能の低下に起因する服薬管理の服薬方法の適切な支援
- 腎・肝機能の低下や体成分組成の変化に伴う体内薬物動態の変動や個々人の生理機能に応じた処方・調剤・服薬の管理が必要



訪問薬剤管理指導の実施に至るパターン



服薬に関する因子の評価と計画の流れ(イメージ図)



多職種連携によりアセスメント可能

食事

食欲
味覚
嚥下状態
口腔内清掃
口渇
吐き気
胃痛
など

排泄

尿の回数、出具合
便の回数、出具合
汗（状態）
など

睡眠

睡眠の質、時間
日中の傾眠
不眠の種類
など

運動

ふらつき
転倒
歩行状態
めまい
ふるえ
すくみ足
手指の状態
麻痺
など

これらのキーワードから患者の体調を定期的に
チェックし、薬剤の効果・副作用をアセスメントする

このほか認知領域や環境（独居、同居、施設、老老介護等）も把握

薬局薬剤師の業務変化

医薬分業の進展（地域医療におけるチーム医療への参画） 在宅医療への参画

- 麻薬・注射薬の取扱の増加

- 内服・外用の調剤のみならず T P N, 無菌調製を含む調剤も
- 薬剤選択への薬学的観点からの助言

- 用量のチェック

- 相互作用・副作用のチェック

- 嚥下困難患者・認知機能低下患者への剤形選択

- 調剤方法の工夫・補助手段への助言

- 輸液管理・栄養管理への処方支援
（ターミナルステージに応じた管理）
患者家族に対する薬剤情報提供

薬局薬剤師の退院時カンファレンスへの参画

- 入院中に実施された医療についての情報共有
- 在宅医療支援に対する診療報酬上の評価

薬局薬剤師と病院薬剤師の情報共有のための連携

- 外来化学療法や複数医療機関からの指示情報等の共有, 共同の勉強会等 7

多職種連携の際の共有情報など

＜訪問看護ステーションとの連携＞ (例：副作用管理)

薬剤師 → 看護師
医薬品情報の提供
薬剤訪問指導内容の共有
重篤副作用の説明
副作用チェックポイント説明

看護師 → 薬剤師
訪問時の副作用チェック
症状変化時の報告
薬の影響について相談

＜介護職との連携＞ (例：ケアマネジャー等)

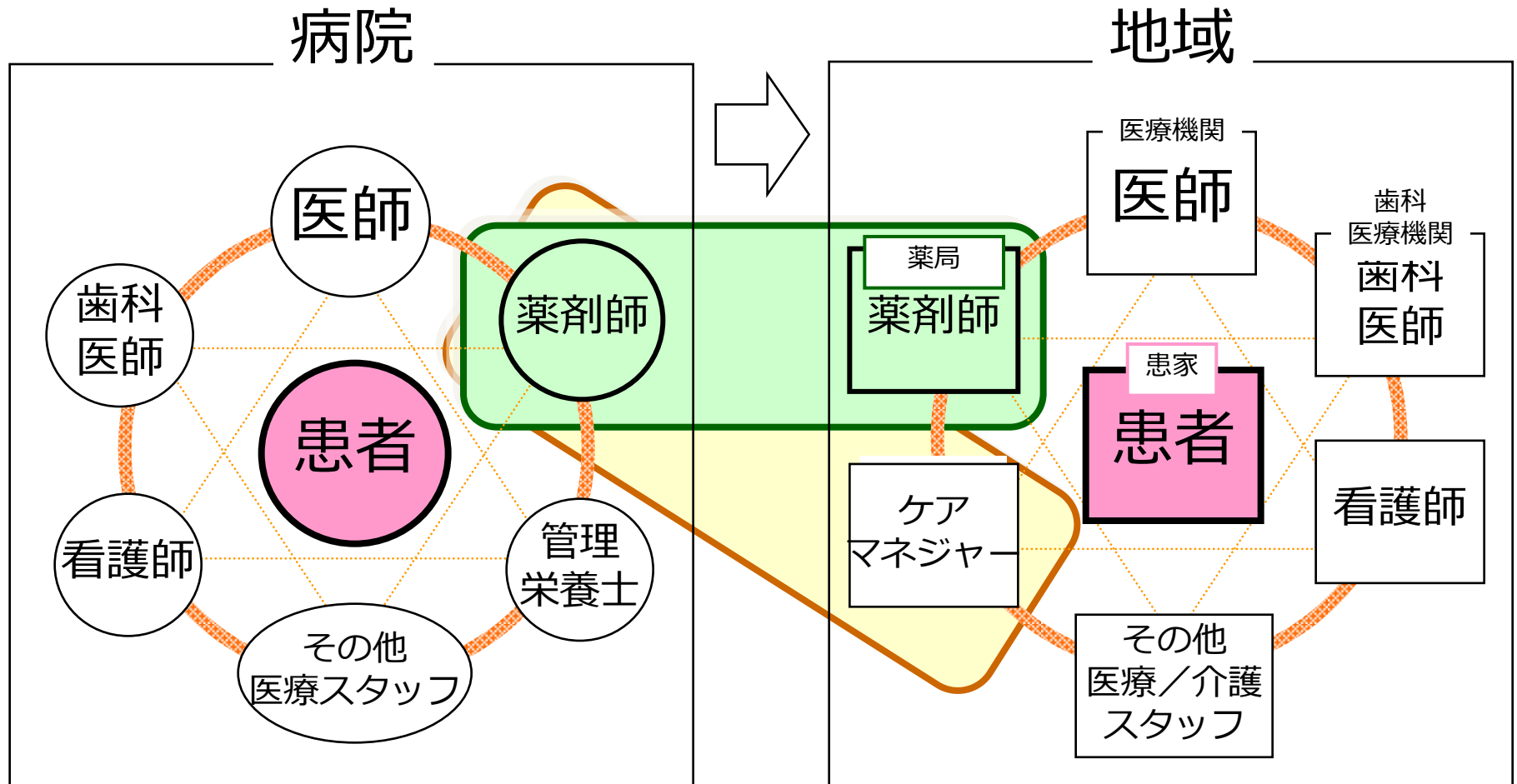
薬剤師 → ケアマネジャー
介護職訪問時の服薬介助、スケジュール調整依頼
介護職訪問時の体調チェック(記録)依頼
薬剤訪問指導内容の共有
入院時における服薬情報の提供

ケアマネジャー → 薬剤師
ケアプランの情報共有
利用者情報の提供
介護保険に係る情報提供
生活、経済状況等の背景

チーム医療の姿

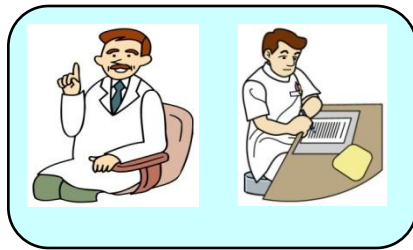
<医療機関の場合>

<在宅医療（地域医療）の場合>

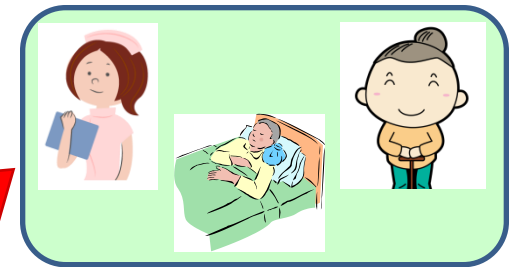


安全で安心なシームレスな医療提供体制の確保

終末期医療における薬剤師の役割



医師への助言



患者や患者家族等
への服薬指導

薬剤の特性を含む薬学的観点からの助言

相互作用のチェック
副作用のチェック

嚥下困難患者・認知機能低下患者への
剤形選択・調剤方法の工夫・補助手段
等の助言

輸液管理・栄養管理への処方支援
(ターミナルステージに応じた管理)

薬剤選択への助言

病院薬剤師

調剤室から病棟へ
緩和ケアチームへの参加
注射薬も含めた調剤へ（抗がん剤の混合調製）
外来化学療法の実施
：



薬薬連携

薬局薬剤師

医薬分業の進展・定着
在宅医療への参画
T P N，無菌調製等を含む調剤へ
退院時カンファレンスへの参画
：

麻 薬

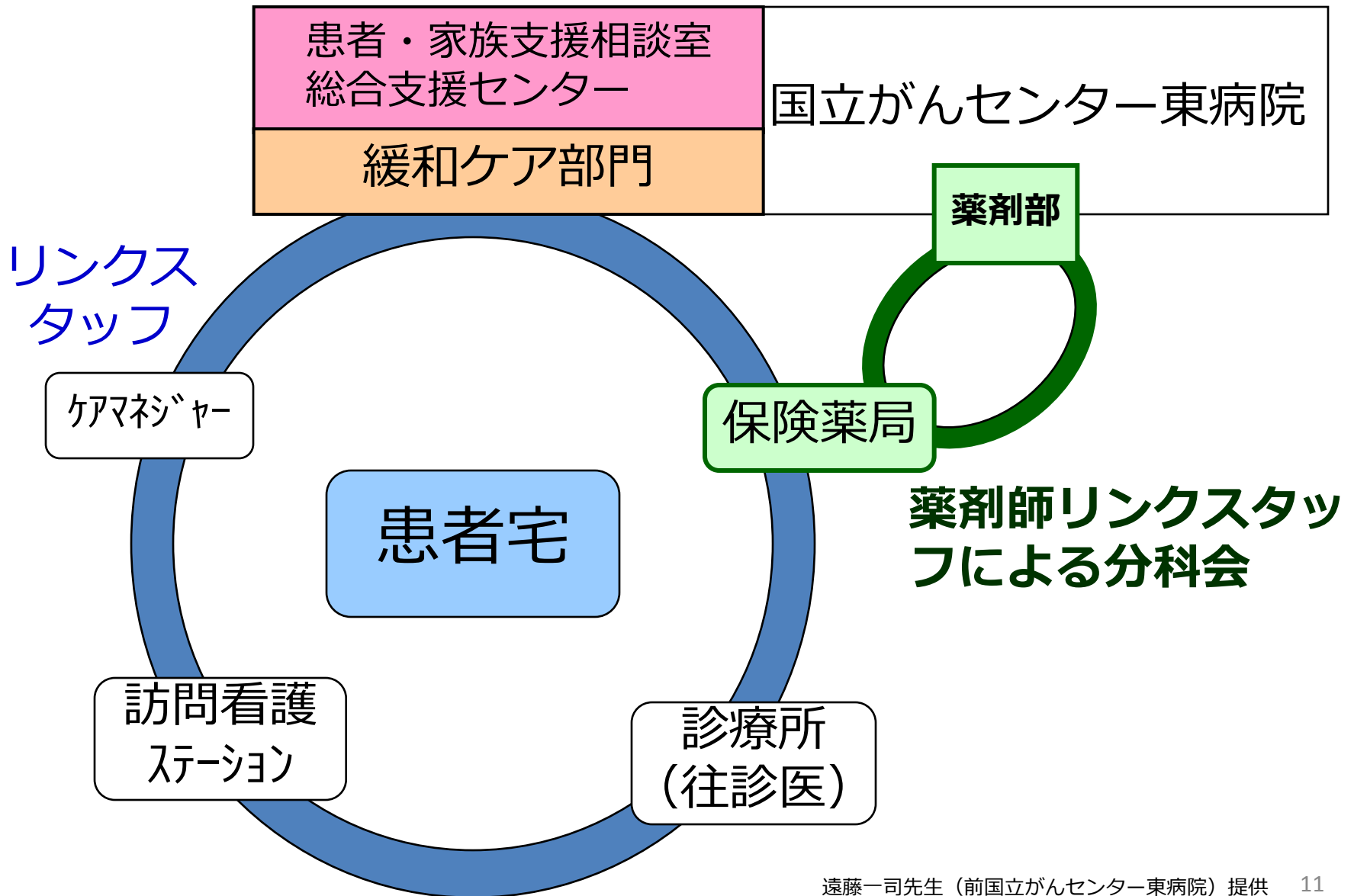
厳格な使用制限から疼痛緩和の手段として積極的な使用推進へ

流通に対する規制緩和

製剤的工夫（徐放性製剤，外用薬（坐剤，貼付剤））がなされた薬剤の開発された
ことによる薬剤選択の幅の増加

	モルヒネ系製剤	1981	2000	2006
注射	アンプル製剤	2	3	3
	キット製剤	0	0	2
内服	錠剤	1	4	7
	カプセル剤	0	3	9(3)
	散剤(原末)	3	3	3
	散剤(顆粒)	0	3	5(2)
外用	液剤	0	0	2
	坐剤	0	3	3

地域緩和ケアを支えるリンクスタッフ



薬剤師が在宅医療に参加する意義は

社会的入院から在宅療養への移行の促進(患者QOLの向上)

- ・ 在宅医療サービスの質的向上と要するコストの適切なバランス
 - － 安心・安全な薬物治療を確保 ⇔ トータルコスト抑制
 - － 看護・介護職がやむをえず薬に関わっている現状を改善
 - － 多職種連携と相互の専門性を発揮して適正なサービスの提供

(参考) 年間推計値として、飲み残しの潜在的な薬剤費475億円、薬剤師の訪問指導等により改善された金額424億円(潜在的な薬剤費の9割に相当)

平成19年度老人保健事業推進費等補助金「後期高齢者の服薬における問題と薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導ならびに居宅療養管理指導の効果に関する調査研究」報告書」より

- ・ 在宅を担当する医師の負担軽減
 - － 処方提案・処方設計の支援(剤形、用法、用量、薬剤選択等)
 - － 薬学的管理指導に基づく患者状況の確認とフィードバック
 - － 患者の療養状態に応じた用法・用量の調節や処方変更の提案
 - － 服薬状況(適正使用)、副作用等の確認
 - － 患者からの相談応需と関係職種への連絡等の分担

在宅医療における薬剤師業務の課題

- 薬剤師による在宅訪問業務の医療福祉関係者への周知・理解不足
- 在宅訪問業務の応需可能な薬局の情報不足（届出情報と実際の対応可否に乖離）
- 在宅訪問業務に対応できる薬局・薬剤師の不足（経験不足、薬局規模、経営上の効率）
- 24時間、365日体制の構築
- 麻薬の供給、無菌調剤が必要な製剤の供給
- 医療・衛生材料の供給
- 施設の役割と機能に応じた薬剤管理
- 医療保険と介護保険のシームレスな連携

課題の解決に向けて・・・

- ◆ 多職種との連携・協働の促進
- ◆ 薬局・薬剤師の在宅訪問業務の応需状況の把握と情報公開
- ◆ 薬局の役割や機能について、患者や医療福祉関係者への周知
- ◆ 退院時共同指導や在宅医療移行後のカンファレンス等への薬局・薬剤師の参画
- ◆ 薬剤師間（病院・薬局間、薬局間）の連携促進
- ◆ 在宅医療に取り組む薬局・薬剤師のさらなる養成・支援（研修会の開催、手順書作成等）
- ◆ 必要な薬剤の供給に関わる薬事制度や規制の検討
- ◆ 医療関係団体間の連携の推進・強化

日本薬剤師会「在宅療養推進アクションプラン」 ～薬剤師が地域のチーム医療に参画するために～

薬局・薬剤師のスキルアップ

- ・体調チェックフローチャート
- ・在宅服薬支援マニュアル

地域支部における 訪問薬剤管理指導業務の 応需体制の整備

- ・地域の薬局情報(訪問薬剤管理指導業務応需体制等)を把握するための調査
- ・地域の薬局情報公開ツール(薬局リスト等)の作成

地域連携の促進 ～薬局機能・業務の理解促進～

- ・医療職/介護職
- ・行政
- 医療/薬務
- 介護/介護予防
(地域包括支援センター)
- 高齢福祉
- 国保
- ・地域住民

- 日薬
- ・体調チェックフローチャートの改訂
【平成23年2月出版予定】
 - ・在宅服薬支援マニュアルのDVD化
【平成23年2月完成予定】

- ・薬局向け調査票のひな形の作成
【平成22年度中】
- ・薬局リストのひな形の作成
【平成22年度中】

- ・各方面へのアプローチモデル(手順書)の作成
【平成22年度中】
- ・薬局業務の説明用資料の作成
【平成22年度中】

都道府県薬: 地域(支部)での円滑な実施のための総合的な支援

- 支部薬
- ・支部薬剤師会等での研修
【平成23年度～】

- ・地域における推進方策の検討
【平成23年度～】

- ・各方面へのアプローチ、連携の促進
【平成23年度～】

平成23年度末、進捗状況を確認し更なる推進策を検討(全国担当者会議を予定)